

朝倉氏と 京都の古刹との 意外な関係

思い切って大きな決断をするこ
とを「清水の舞台から飛び降り
る」と喩えるのは、いつの頃からか
日本人の常套句です。このことわざ
の舞台である清水寺に「朝倉堂」と
いう御堂があることをご存知でしょ
うか。

一乗谷朝倉氏の初代当主朝倉孝景
は清水寺の千手観音を信仰し、毎日
観音経を唱えていました。孝景は応
仁年間（1467〜1469）に在
京しており、その頃の話として、あ
る人が清水寺の本地仏（菩薩）であ
る千手千眼観音像を孝景のもとに
持って来て、これを孝景が得た」と
か、孝景が夢に清水寺の古い仏像
を見た」といった逸話が伝わってい

ます。

文明元（1469）年、清水寺
は応仁の乱の兵火で焼失します。
「十穀坊主」と呼ばれた大勧進願阿
上人は清水寺の再興のため奔走し、
越前の朝倉氏や国人たちはこぞって
奉加（功德を得るために金品を寄進
しました。彼らの名が列記されてい
る「清水寺再興奉加帳」によれば、
孝景は500貫文、氏景と貞景はそ
れぞれ1000貫文分の柱を寄進し
ています。時の権力者日野富子です
ら120貫文であり、その額は他の
者と比べて桁はずれに多いものでし
た。この他、朝倉氏の国人クラスの
武士は大体20貫文を奉加しており、
これも相当高額です。これら奉加帳
の数字は朝倉氏の清水寺に対する特

別の信仰を物語っています。

また、貞景は、清水寺に法華堂
を建立。造営料と灯明料の田地を
寄進しています。これが現在「朝
倉堂」と呼ばれている建物の前身
で、貞景が亡くなった後の永正11
（1514）年に完成、供養され
ました。その姿は「清水寺参詣曼
荼羅」（16世紀に成立）に描かれて
おり、本堂と同様に舞台作りだっ
たことが注目されます。



朝倉堂の描かれた「清水寺参詣曼荼羅」
音羽山清水寺蔵

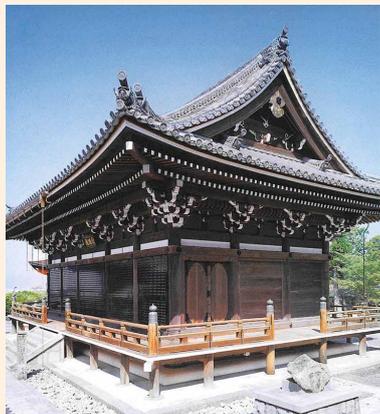
（『国宝 清水寺本堂ほか八棟修理工事報告書 第三集（朝倉堂）』より）

永祿5（1562）年、義景に嫡
子が誕生すると、清水寺成就院は早
速お守りや御祝の品を贈っていま
す。また、その後も成就院は義景に
対して年始の御祝として観音画像1
幅と扇、杉原紙などを贈っています。
清水寺も朝倉氏に対する贈答は欠か

さず、そのような関係にあったよう
です。

京都清水寺と深い関係にあった一
乗谷朝倉氏。まさに清水の舞台から
飛び降りるような勢いで行われた多
額の援助は、その信仰の厚さもさる
ことながら、越前を支配する朝倉氏
の絶大な力を物語っています。

関連史料・ゆかりの地 清水寺「朝倉堂」



（『国宝 清水寺本堂ほか八棟修理工事報告書 第三集（朝倉堂）』より）

朝倉氏建立の初代朝倉堂は、寛永6
（1629）年の火災で焼失してしまいま
した。清水寺本堂の西に隣接する現
在の朝倉堂は、江戸初期に再建され
たものです。その後、幾度かの改修
を経て現在に至っており、平成22年
から約3年をかけ、大規模な修理がな
されました。

【住所】京都市東山区清水1丁目294
（JR京都駅から市バス東山通北大路バスターミナ
ルゆき「五条坂」下車徒歩10分）

参考資料等

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館編『第10回企画展 一乗谷の宗教と信仰』
『国宝 清水寺本堂ほか八棟修理工事報告書 第三集（朝倉堂）』京都府教育庁指導部文化財保護課

執筆・協力

福井県立一乗谷朝倉氏遺跡資料館 学芸員 石川 美咲